

## 慰霊・鎮魂「東北お遍路」始動

東日本大震災の犠牲者の慰霊・鎮魂を行う「巡礼の道」を作る「東北お遍路」(こののみち)プロジェクトという活動が、福島、宮城、

岩手、青森の東北4県の地域活動家らの間で進められている。被災した寺、神社、教会だけでなく、岩手県陸

前高田市の「奇跡の一本松」などを巡礼ポイントに指定し、全国や海外の人たちに現地を訪ねてもらおうのが狙いだ。

NPO代表で現在は福島県相馬市議の新妻香織さんが災害の風化を懸念して発案し、約20人の賛同を得て2011年秋からスタートした。12年から一般社団法人として活動を本格化させている。

同年11月には「巡礼地候補暫定リスト」を作成し、89か所の巡礼ポイントを暫定的に設定。13年2月には巡礼ポイントであることを示すロゴマークも決めた。今後、場所の危険性や住民感情などを調査し、数年かけて最終的な巡礼ポイントを決める。ただ、「奇跡の一本松」や宮城県名取市関<sup>あ</sup>上の「日和山」など震災を

### 特定宗教に偏らず、奇跡の一本松も

象徴する場所は、確実に選ばれる見込みだ。寺や神社など宗教施設も入れるが、特定の宗教に偏るようにはしないという。

プロジェクト理事でジャーナリストの穴澤鉄男さん(68)(仙台市)によると、被災地では、「語り部」が被災体験を語るようになっていたほか、観光目的の訪問者も歓迎する動きが生まれているという。プロジェクトでは、こうした動きと連動し「『物語』を語り継ぐ形で震災の風化を防ぎ、地域活性化を図っていきたい」とする。

活動について、巡礼に詳しい宗教社会学者の岡本亮輔さんは「宗教教団を経由しない『世俗的な巡礼』が世界的な現象になっている。

神社も寺も教会も『一本松』もある遍路という発想は面白い」と話している。プロジェクトのHPは「http://tohoku-ohenro.jp/」。



すでに多くの巡礼者のある  
宮城県名取市関上の日和山